

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 23 日 (2006.3.23)

【公表番号】特表 2002-521462 (P2002-521462A)

【公表日】平成 14 年 7 月 16 日 (2002.7.16)

【出願番号】特願 2000-562062 (P2000-562062)

【国際特許分類】

**A 0 1 N 59/16 (2006.01)**

**A 0 1 N 25/34 (2006.01)**

**A 6 1 L 2/16 (2006.01)**

**D 0 6 M 13/282 (2006.01)**

**D 0 6 M 15/03 (2006.01)**

【F I】

A 0 1 N 59/16 Z

A 0 1 N 25/34 Z

A 6 1 L 2/16 Z

D 0 6 M 13/282

D 0 6 M 15/03

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 1 月 26 日 (2006.1.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 基材を提供するステップと、  
キレート化ポリマーおよび金属イオンを含む溶液を生成するステップと、  
前記溶液を前記基材上に付着させるステップと、  
前記基材を乾燥させて被覆基材を形成するステップと、  
前記被覆基材に強化剤を加えて抗菌性物品を形成するステップと  
を含む、抗菌性物品を製造する方法。

【請求項 2】 キレート化ポリマーおよび金属イオンを含む溶液を生成するステップが、(A) ポリグルコサミン類、エチレンアクリル酸コポリマー、ポリカルボン酸類、およびポリアミン類からなる群からキレート化ポリマーを選択するステップと、(B) 前記キレート化ポリマーを酸に溶解して酸性溶液を生成するステップと、(C) 前記金属イオンの水溶液を調製するステップと、(D) 前記金属イオンの水溶液を前記酸性溶液と混ぜ合わせるステップとを含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 前記ポリグルコサミンがキトサンである、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】 前記金属イオンの水溶液を調製するステップが、前記金属イオンの塩を選択するステップと、前記塩を水に溶解するステップとを含む、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】 前記金属イオンが、亜鉛、ジルコニウム、鉄および銅からなる群から選択される、請求項 4 に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 2 0 】

イオン／ポリマー溶液を基材上に付着させた後、室温または高い温度で、溶剤を除去するのに十分な時間、被覆基材を乾燥させる。溶剤を除去し、キレート化ポリマーを乾燥させ、処理した基材の上に適当なフィルムを形成するのには、約 1 0 5 ～ 約 1 2 0 の温度で作動させた従来の乾燥炉を使用して加熱することにより行われる乾燥で十分である。1 2 0 より高い温度では、キレート化ポリマーの若干の変色起きる可能性がある。1 0 5 より低い温度では、乾燥速度は望ましくないほど遅い可能性がある。

## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 3

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 6 3 】

【表 1】

表 1

## 細菌死滅アッセイ (Salmonella)

試料 <sup>1</sup>	0 日 Log 変化 (標準偏差)	1 日 (標準偏差)	3 日 (標準偏差)	7 日 (標準偏差)
比較例 A				
0X <sup>2</sup>	-0.4 (0.01)	+1.1 (0.04)	+1.0 (0.11)	+1.1 (0.04)
10X	-0.4 (0.01)	+1.0 (0.02)	+0.7 (0.08)	+0.6 (0.08)
100X	-0.5 (0.04)	+0.7 (0.19)	+0.7 (0.12)	+0.6 (0.03)
200X <sup>2</sup>	-0.4 (0.02)	+1.1 (0.10)	+0.8 (0.09)	+1.0 (0.08)
300X	-0.4 (0.03)	+1.2 (0.01)	+1.0 (0.11)	+1.0 (0.02)
400X	-0.5 (0.03)	+1.0 (0.06)	+0.8 (0.08)	+0.8 (0.16)
実施例 2				
0X	-0.5 (0.04)	-4.8 (0.10)	-6.7 (0.00)	-6.7 (0.00)
10X	-0.7 (0.12)	-4.3 (0.48)	-6.7 (0.00)	-6.7 (0.00)
100X	-0.9 (0.15)	-4.7 (0.13)	-6.7 (0.00)	-6.7 (0.00)
200X	-0.6 (0.14)	-5.6 (0.20)	-6.7 (0.00)	-6.7 (0.00)
300X	-0.6 (0.20)	-6.2 (0.63)	-6.7 (0.00)	-6.7 (0.00)
400X	-0.7 (0.07)	-6.3 (0.34)	-6.7 (0.00)	-6.7 (0.00)
比較例 B				
0X <sup>2</sup>	-0.2 (0.02)	-0.5 (0.03)	-1.3 (0.09)	-2.2 (0.27)
10X	-0.3 (0.03)	+1.1 (0.04)	+1.0 (0.13)	+1.1 (0.07)
100X	-0.3 (0.03)	+1.2 (0.04)	+0.9 (0.08)	+1.0 (0.14)
200X	-0.3 (0.03)	+1.2 (0.07)	+1.2 (0.03)	+1.1 (0.06)
300X	-0.3 (0.02)	+1.1 (0.09)	+0.9 (0.10)	+0.9 (0.10)
400X	-0.2 (0.04)	+1.1 (0.05)	+0.8 (0.09)	+0.9 (0.04)
実施例 4				
0X	-0.1 (0.02)	-2.5 (0.20)	-5.0 (0.99)	-5.3 (0.66)
10X	-0.2 (0.03)	-4.2 (0.13)	-6.9 (0.00)	-6.9 (0.00)
100X	-0.2 (0.01)	-4.5 (0.25)	-6.9 (0.00)	-6.9 (0.00)
200X	-0.1 (0.04)	-4.0 (0.07)	-6.8 (0.15)	-6.9 (0.00)
300X	-0.1 (0.03)	-3.4 (0.03)	-6.9 (0.00)	-6.9 (0.00)
400X	-0.1 (0.12)	-1.3 (1.85 <sup>1</sup> )	+1.2 (0.11)	+1.2 (0.04)

1. 「\_\_X」は、試験前に、基材をすすいで絞った回数を示す。

2. これらの試料中に存在していたと考えられた汚染。